

## 春日山原始林授業づくりセミナー 第4回 フィールドワーク 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2020年10月24日（土）9:00~13:00

参加者：学生：川崎（教職大学院）

教育大：杉山、阪本

■実施場所：奈良公園（春日大社参道）・春日山原始林

■実施概要：実施行程は以下の通り。

9:00 近鉄奈良駅前集合 移動

9:10 橋本町高札場裏のムクノキ大木の観察・解説

9:15 興福寺三重塔の奥のスタジイの観察、種子の確認など

9:30 春日大社一の鳥居周辺の赤松、影向の松、イチイガシなど観察

9:50 春日大社参道～浅茅ヶ原園地間にあるコウヨウザン、カキ、を観察

10:00 春日大社表参道のムクロジを観察・解説

10:10 国立博物館裏手（春日大社塔跡付近）サイカチ、アキニレ、フジを観察

10:30 大仏殿前から斜めに入る道（春日大社境内地）のヒノキバヤドリギ、オオバヤドリギを観察

10:40 鹿苑周辺のナギ、イチイガシ巨樹とドングリを観察

11:00 春日大社国宝殿側のケヤキ巨樹を観察、伐採後のナギとモミの年輪の違いを観察

11:20 水谷神社のイブキ、マユミの観察

11:30 春日山遊歩道へ。入り口のカラスザンショウを観察

11:40 遊歩道のモミ、仏頭石、フジ、月日磐など見学

11:50 枯死したツクバネガシ、ナラ枯れ被害のツクバネガシ、カヤなど観察

12:00 植生保護柵および落ちているツクバネガシのドングリを観察、ツブラジイの実を観察

12:10 ムクロジの観察、シカによる食害の観察（カラスザンショウ）、ムクロジの種子の泡立ちを  
を観察

12:20 遊歩道を折り返し、遊歩道出口にて終了・解散

### ■概要報告

近鉄奈良駅周辺から、春日山原始林までの間で特徴的な樹木について解説しながら歩いた。「奈良公園の植物（2004北川）」を参考に掲載されているものも併せて紹介。普段見過ごしている木々の違い、種子の形や材の利用などについて話した。参加は1名と少なかったが、奈良公園内の木々についてと、シカの影響についても併せて解説したことで奈良公園の自然環境にシカの影響が色濃く現れていることへの理解にもつながったのではないかと感じた。特に、平坦部では、スタジイやイチイガシのどんぐりはシカに食べられてほとんど見ることができない状況や、ナンキンハゼについても浮雲園地から若草山が紅葉している現状や、至る所に実生が発生している状況なども確認した。

総じて気候も良く、気持ちよく歩くことができた。学校でのフィールドワークの取り組みで奈良公園を扱う場合には、樹木の違いや木の実の観察などを通じて自然の面白さを知るといった内容から、奈良公園のシカと自然の関係（シバ→糞→糞虫）という点だけでなく、ナンキンハゼの拡大や、極端な植生などについての問いをいくつも投げかけることができる場であると改めて実感した。

■実施風景（写真）



橋本町高札場のムクノキ



興福寺南円堂裏のスダジイ



スダジイの実



春日大社参道のイチイガシ



イチイガシのどんぐりと葉



浅茅ヶ原のコウヨウザン



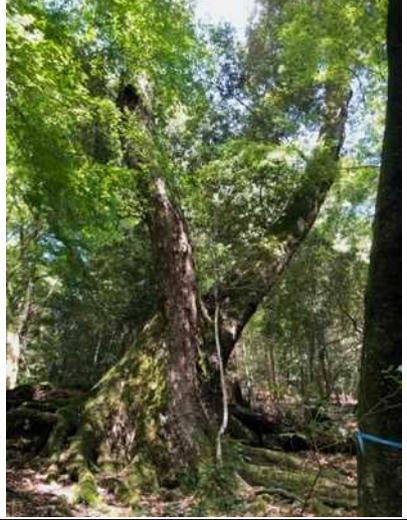
浅茅ヶ原のカキノキ



春日大社参道のムクロジ



主幹から竹が生えている

		
<p>国立博物館近くのサイカチ</p>	<p>トゲが不規則に飛び出ている</p>	<p>サイカチの豆を食べるシカ</p>
		
<p>鹿苑近くのイチイガシ巨木</p>	<p>植生の遷移に関する解説</p>	<p>春日大社国宝殿のケヤキ巨樹</p>
		
<p>春日山遊歩道の洞の仏頭石</p>	<p>春日山遊歩道のイチイガシ巨木</p>	

■参考資料（ワークシート）

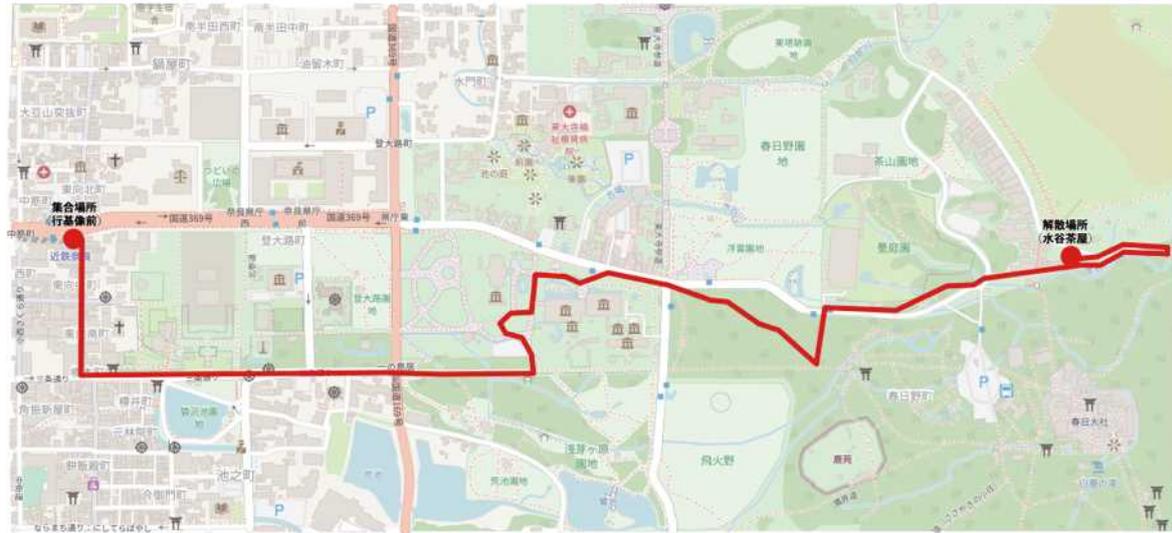
## 春日山原始林フィールドワーク

奈良公園・春日山原始林の巨樹とどんぐり

見つけたもの（記録・自然・風景 etc）をマップに書き込もう

実施日

氏名



## 登場する木々

特徴などをメモしよう

ムクノキ (楡木・楡樹)

サイカチ (皂莢)

オオハヤドリギ (大葉寄生木)

イロハモミジ (伊呂波紅葉)

クロマツ (黒松)

アキノレ (秋楡)

イヌガヤ (犬樞)

モミ (樺)

イチイガシ (一位檜)

フジ (藤)

ナンキンハゼ (南京楡)

ナギ (榎・竹柏)

スダジイ (榎)

クスノキ (楠)

ツブラジイ (円楡)

スギ (杉)

ムクロジ (無患子)

ヒノキバヤドリギ (檜葉寄生木)

ツクバネガシ (衝羽根榎)

カヤ (榎)

イヌガシ (犬樞)

サカキ (榎)

シキミ (榎)

カラスザンショウ (烏山楡)